

教職履修カルテ
＜実践活動用＞

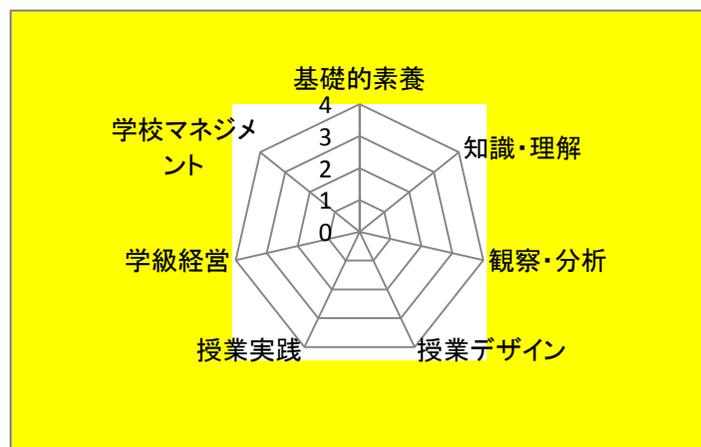
◆ 各実践活動に関わる授業科目について、活動が終了したところで自己評価してみましょう。
(4:「十分に習得できた」、3:「およそ習得できた」、2:「少し習得できた」、1:「ほとんど習得できていない」の4段階で評価し、数値を記入する。)

学籍番号
氏名

評価要素		専門職に求められる基礎的な素養				知識・理解					
具体的な評価観点		児童・生徒との関係が良好であり、かつ適切な指導もできる	学校生活になじみ、教師と児童・生徒に責任を負ってかかわることができる	助言を進んで受け入れ、意欲的に自らの向上に取り組むことができる	児童・生徒との対話を重視し、そこから意欲的に学びとることができる	教科等(教科外を含む)の内容・方法、教材を理解している。(自分が関わった限りで)	教科等の目標・評価とその方法について概ね理解している。	教科等の指導案について理解し、いくつか作成できる。	児童・生徒の発達と特別支援教育について概ね理解している。	学校教育関連の法令について概ね理解している。	
YNUイニシアティブ4つの実践的「知」との対応	知識・教養					◎	◎	◎	◎	◎	
	思考力			○	◎			◎			
	コミュニケーション能力	◎	◎	◎	◎						
	倫理観・責任感		◎								
科目名	成績										
授業科目名	教育実習Ⅰ	自己評価の平均値									
	教育実習Ⅱ	自己評価の平均値									
その他の実践活動に関する自己評価の平均値											

評価要素		観察・分析			授業デザイン			授業実践				
具体的な評価観点		発問と尋ね方、関わり方、板書・教材・ノート等の活用などを観察できる。	教師の意図の理解をふまえ、自分なりの課題を立てて観察ができる。	授業中の記録の取り方とその分析法がわかり、レポートにまとめることができる。	児童・生徒の実態と問題をふまえ、指導目標の設定や教材研究ができる。	児童・生徒の学習状況、興味・関心を考慮して、指導案が作成できる。	児童・生徒一人一人の多様な反応をいくつか予想することができる。	教科等の目標と基準・規準に沿って評価ができ、授業実践にフィードバックできる。	教科等の特性と目標等を意識し、様々なものを活用して実演できる。	個別指導やグループ指導の特徴がわかり、活用ができる。	有効な教材や教具を選択・活用したり、作成したりできる。	授業ができるように教室環境、状況を整え、維持できる。
YNUイニシアティブ4つの実践的「知」との対応	知識・教養	◎	◎		◎	◎			○	○	◎	
	思考力			◎			◎	◎				
	コミュニケーション能力								◎	◎		
	倫理観・責任感											◎
科目名	成績											
授業科目名	教育実習Ⅰ	自己評価の平均値										
	教育実習Ⅱ	自己評価の平均値										
その他の実践活動に関する自己評価の平均値												

評価要素		学級経営				学校マネジメント			
具体的な評価観点		学級経営の意義を理解し、担任教師に協力ができる。	特別な支援を要する児童・生徒への対応を理解し、関与することができる。	教室の環境整備(掲示物、教具の設置など)に進んで協力できる。	学級・校内のルールづくりとその維持に協力することができる。	学校の組織・運営(校務分掌など)について概ね理解している。	学校組織の運営に協力することができる。(自分が関わった限りで)	安全(防犯・防災・交通)や保健の教育について、概ね理解している。	
YNUイニシアティブ4つの実践的「知」との対応	知識・教養	○	○			◎		◎	
	思考力								
	コミュニケーション能力	◎	◎	◎	◎		◎		
	倫理観・責任感			○	○				
授業科目名	科目名	成績							
	教育実習Ⅰ	自己評価の平均値							
	教育実習Ⅱ	自己評価の平均値							
	その他の実践活動に関する自己評価の平均値								



◆ 各実践活動を通して、どのような力が身に付いたでしょうか。今の自分に不足しているのは、どのような力でしょうか。気づいたことを記入しておこう。

確認者署名